

専門学校 久留米自動車工科大学校 自己点検評価

(平成 27 年度)

教育理念・教育目標・育成人材像等

1 学校の教育目標

本校は、「人間味豊かな産業人の育成」という建学の精神のもと、単なる知識、技術、教養等の修得だけではない教員と生徒、学校と保護者、生徒と保護者との相互の密接で適切な交流により養われる、豊かな人間味を備えた人材を育成することが本校の教育目標である。

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

平成 27 年度では、以下について重点的に取り組み、教育計画を行った。

- 全学科の就職率 100%を維持するために二級自動車工学科では職業理解教育、一級自動車工学科では接遇マナー教育を継続し、自己表現能力等を向上させた。
- 各自動車整備士資格取得率の維持・向上を図るため、対策授業の一層の強化に取り組む。
- 安全・安心の学校づくりという法人の理念に基づき、7号館および学生寮の耐震診断および耐震改修工事を実施した。
- 安定的経営実現のため、長期間据え置いていた学納金改定を策定し、理事会へ申請した。
- 今後の競合校との競争力強化のために学科改組を行い、二級自動車工学科（2年制）・車体整備工学科（3年制）・一級自動車工学科（4年制）とし、それに伴い入学定員数の変更の申請を行った。
- 入学者数増加のため学科改組とともに校名の変更を計画した。新たな学校名を「久留米自動車工科大学校」とし、変更申請を行った。
- 上記のとおり、平成 28 年 4 月から校名変更と学科改組の実施にあたり、ステークホルダーに早急に周知するため、プロモーションビデオ制作等の広報活動に注力した。

3 評価項目の達成および取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
学校の教育理念・目的・育成人材像は定められているか	④	3	2	1
学校における職業教育の特色は持っているか	④	3	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1

学校の教育理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	③	2	1
学科やコースの教育目標、育成人材像は、それぞれに対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

① 課題

若年層の自動車への関心度の低さは深刻化しているが、自動車産業は今後も我が国の基幹産業であり、最も安定した業界であることに変化はないと思われる。

自動車の各種自動化やセンサー技術などの高度技術化への対応には若年層の技術者の活躍が必須であるが、その基礎学力を身につけるための方策・カリキュラムの工夫などが明確化されていないのが課題である。

② 今後の改善方針

基礎学力向上とともに、電子化対応のためのカリキュラム構成や実験対応などを早急に考慮する必要がある。また、実学教育だけではなく、コミュニケーション能力の更なる向上を考慮した職業理解教育の充実など、人間味豊かな産業人となるための教育改革の継続が必要である。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	④	3	2	1
運営組織や意思決定機能は、有効に機能しているか	④	3	2	1
人事等に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
教育活動等に関する情報公開が適正になされているか	4	③	2	1
システム化等により業務の効率化が図られているか	4	3	②	1

① 課題

運営方針は年度毎に事業計画書を継続的に作成している。

事業計画書は、前年度の教育目的の達成度や予算使途の適正さ、将来計画などを踏まえたうえで作成する。

もちろん、社会情勢の変化や学生及び受験生の要望を認識したうえで、取り組むべき施策や解決すべき課題を明確にしている。

また、法人本部と連動した短期計画・中期計画の策定がなされている。

人事等に関する規程は、学校独自ではなく、法人全体で構成および規程化されている。

業務の効率化は学務システム化が最適ではないため、厳しい評価となった。

② 今後の改善方策

教育活動の情報公開は、定期的・計画的に HP 上では一部公開している。

業務の効率化については、学務システム導入は費用的に難しい部分もあるので、現有のシステムで運用を継続し、業務マニュアル化を進めて職員各々がすべての業務を理解できるような環境を早めに構築したい。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
教育理念、育成人材や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間確保は明確化されているか	④	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実施されているか	④	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直しが行われているか	④	3	2	1
関係分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
成績評価・単位認定、進級・卒業判定基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
関連分野における業界との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上の取組みがなされているか	④	3	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

授業評価等は生徒指導方針のもと毎年実施し、情報は集積され教員間に共有されている。

さらに教員の技術的知識や生徒指導能力向上の研修は積極的に参加しているが、職員の能力開発のための研修への参加がほとんどできていないのが課題ある。

② 今後の改善方策

生徒による授業評価とともに校長による授業評価または教員同士による授業評価を実施し、生徒への指導が適切であるかどうかを客観的に確認する。

また、年々大きく変わりつつある生徒指導方法に関しては、本校の状況に伴った研修テーマを適宜策定し実施することで生徒への対応力向上を図る。

(4) 学習成果

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
卒業生等の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

平成 26 年度に限っては、一時的に退学率が低下したが、近年の退学率は総じて高く退学率の低減への取り組みや対応策の選定は重要な課題である。

また、卒業生の社会的活躍や評価における把握は、人的不足の問題があり十分とは言えない状況である。

② 今後の改善対策

退学率の低減のために、入学式直後から個人面談を実施したうえで各自のポートフォリオを作成し、生徒指導の徹底を図る。また、保護者が実習授業を参観し、個人面談を行う実習授業参観を行い、教師と保護者の関係性向上をより一層強化する。

また、地方から入学して独り暮らしをしている生徒には家庭訪問を実施し、生活面でのケアも実施しているが、この活動は今後も強化継続する予定である。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
進路に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	②	1

課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	②	1
保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	③	3	2	1

① 課題

学生の健康管理であるが、寮生においては寮監による健康管理ができていないが、ひとり暮らしの生徒への食事に関する指導や講師等を招いての健康セミナー等は実施できていない。

メンタルケアとしては本校OGで非常勤の先生に担当してもらっているが完全ではない。

課外活動に関しては、活動自体が活発ではないため、生徒の意欲向上への取り組みが必要である。

② 今後の改善方策

体のケアについては同法人内の大学医務室と連携しているが、その存在があまり知られていないことから周知の方法を工夫しなければならない。

またメンタルケアについても顔を見合わせながら相談できるようなシステムまたは場所の確保が必要であると思われる。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
施設・設備は教育上の必要性に十分対抗できるように整備されているか	④	3	2	1
学内外の実習施設、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

教育上の施設整備に関しては十分な広さと実験装置がそろっているが、実習車両等の老朽化などの切り替えが今後の課題である。

また、ソフト面では隣接する福祉施設と緊急災害時の相互協力体制は整えているが、ハード面における火災時に使用する避難梯子等の入替などを計画的に行う必要がある。

② 今後の改善方法

本法人の基本目標に「安心・安全な学校づくり」という理念があることから、計画的に教育棟、実習場、学生寮などの防災設備の見直しと改善を図る。

具体的には平成 28 年には本館の防水工事を実施する予定である。

また、実習施設は十分と思われるが、進化を続ける自動車産業界において即戦力たる人材育成を目標に掲げる本校にとって、最新機材などの導入も計画していく必要がある。

(7) 学生募集

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
校納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

1年間を通して九州・山口県まで数多くの高校を訪問し、高校内ガイダンス等にも積極的に参加している。またホームページの活用やオープンキャンパスにより本校の魅力を伝えているが、平成24～25年度は堅調に推移していた入学生が、残念ながら平成26年度は大きく減少し平成27年度も目標には届かなかった。

② 今後の改善方法

広報予算には限界があることから、広報媒体を増やすことは難しいため、高校訪問の在り方や訪問する高校の選別など、改めて戦略的・効果的な高校訪問へと変更させる。

他校との競争力対応策のひとつとして、平成28年4月に学校名の変更・学科改組を実施することとし、学校の魅力を具体的に周知するためプロモーションビデオ制作を行った。

また、将来的には同窓会と連携して、同窓生のネットワークを利用した入学者斡旋方法を検討していく必要がある。

(8) 財務

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適切に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1

① 課題

財政基盤的には債務がないことで運営に支障は出ていないが、学生数減少は経営難に直結する問題であるため、募集方法の改善及び退学者の減少における対策が求められている。

会計監査等は適切に実施されており、透明性は保っているが、財務状況の公開に限っては、十分とは言い難い状況である。

② 今後の改善方策

財政基盤の改善策は、何より入学者数の確保である。予算や収支計画は極力無駄をなくし支出の削減はしっかりとできているが、さらに見直し、効果的な予算策定が必要である。

ただ、急激な入学者の回復は望めないことから、収入を増加させるために長期間据え置かれていた学納金を平成 28 年度から改定することとした。

(9) 法令遵守

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

法令や設置基準については遵守されており、適正な学校運営がなされている。個人情報に関してもサーバーによる管理を徹底していると思われるが、規程が整備されていないことは今後の課題と言える。

自己点検評価は、同法人内大学で第三者評価を受けた際の書式に基づき、過去 2 度作成しているが、広く公開はしていないことが課題である。

② 今後の改善方策

個人情報に関する規程の作成、および自己点検評価のホームページ上での公開にむけて取り組む必要があると思われる。